

(3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進

目指す姿

一人ひとりがフレイル予防に努め、より長く元気に過ごしています。

現状と課題

- 高齢者を取り巻く制度の実施主体が異なることから、高齢者の健康状態や生活機能の課題に対して、一体的に対応できていない等の課題がありました。本市においても地域の高齢者が抱える問題に関係部署が連携して取り組み、効果的かつ効率的な事業運営を図る必要があります。また、高齢者の状況に応じた適切な対応が求められることから、関係団体やかかりつけ医等との連携・協力体制を構築することが重要です。
- 75歳に到達すると、後期高齢者医療制度へ移行することにもない、74歳までの国民健康保険制度の保健事業が継続されてこなかったという課題があります。今後は、国民健康保険保健事業と後期高齢者保健事業を接続して実施することが求められています。
- 高齢者の中には、健診も医療も受診していない、または、医療中断などのため健康状態を把握できない人がいます。そのような人の状態を把握し、必要な場合は適切な医療・介護サービス等につなぐことが重要です。
- 壮年期のメタボ対策に重点を置いた生活習慣病対策から、高齢期にあつては、フレイルに着目した対策へと徐々に転換することが必要です。そのため、住民主体の通いの場等を活用して、医療専門職が関与することにより、高齢者が自らの健康状態に関心を持ち、フレイル予防等に積極的に取り組むことが重要です。
- 地域における健康づくりやフレイル対策を広げるためには、元気な高齢者自身が担い手として参加することが望まれます。地域において高齢者を支える立場となる民生委員や福祉委員等の理解や協力を得て、高齢者を社会参画へつなげるよう取り組む必要があります。

①高齢者を支えるネットワークの強化

- ▶市に企画調整する保健師を配置し、庁内関係部署間で情報や資源を共有し、横断的に高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組みます。[施策：3311](#)
- ▶関係団体との連携強化を図り、課題を共有し共通の目的を持って、地域の実情にあった保健事業を効果的かつ効率的に展開していきます。[施策：3312](#)
- ▶地域の高齢者の全体像を把握し、地域の医療関係団体等と包括的に地域の健康課題に取り組みます。[施策：3313](#)

②高齢者に対するきめ細かな個別的支援の実施(ハイリスクアプローチ)

- ▶国民健康保険の保健事業と後期高齢者の保健事業が年齢により途切れることがないように接続し、重症化予防に取り組みます。[施策：3321](#)
- ▶KDBシステム等を活用して、健診・医療・介護等のデータを分析し、一人ひとりの健康課題に応じたきめ細かな個別支援につなげます。[施策：3322](#)
- ▶健康状態が不明な高齢者の状態を把握し、適切な医療・介護等のサービスや保健事業へ接続します。[施策：3323](#)

③医療専門職による通いの場等への積極的関与(ポピュレーションアプローチ)

- ▶保健師などの医療専門職が地域のサロン等へ出向き、フレイル予防の普及啓発を行うとともに、運動・栄養・口腔等の健康教育・健康相談を実施します。[施策：3331](#)
- ▶あらゆる機会を通じ、フレイル状態にある高齢者等を把握し、保健指導等を行い、高齢者の生活機能の向上に取り組みます。[施策：3332](#)
- ▶先進的な取り組みを学ぶ機会を持ち、多職種が連携してフレイル予防を啓発します。[施策：3333](#)
- ▶高齢者が自らの健康状態に関心を持ち、フレイル予防等に取り組むために、幅広い媒体を活用した積極的な情報発信や意識啓発を行います。[施策：3334](#)
- ▶地域の高齢者の支援者(地域包括支援センター等)と連携して、多角的に高齢者の生活の質の向上や社会参画を支援します。[施策：3335](#)